

深尾新 しん 社会主義運動家。明治十二年静岡縣庵原郡小島生れ（一八八一）。筆名ふかを生、不可汚生、深尾、深尾せう、深尾生等。初め小学校教員。渡邊政太郎、原千基等と社会主義傳道に努め、平民社解散後は堺利彦の由分社に入る。『家庭雜誌』の編輯に携はり、傳道用一錢本『社会主義の話』（明治二十八年十一月十五日由分社）出版と、即日發賣禁止處分を受く。明治二十九年堺と日本社会黨を組織、評議員となる。翌年日刊『平民新聞』の編輯に従ひ、「妖婦下田歌子」を執筆。黨の禁止、新聞廢刊後は、結核療養のため歸郷。その後社会主義陣營の分裂争ひの際堺批判とし、次第に運動から遠ざかつた。